P-8. 縦断的資料による成長発育に関する研究 第二報 骨成熟と下顎骨の成長発育

○藤田 邦彦・楠本 修己・中村 恵美・野代 悦生・一田 利道・大木 淳・瀧口 玲子・木尾 哲朗
九歯大・歯矯正

矯正臨床において治療対象となる患者の多くは成長発育途上にあり、治療方針を決定する際には、患者本来の成長量と方向および時期を把握する必要がある。今回演者らは第二報として、手および手関節部（以後、手部と呼ぶ）の骨成熟度を指標とし、下顎骨の成長発育をよりの確に把握し、治療目標決定の一助とするために調査研究を行ったので報告する。

資料は本学矯正学講座所蔵の6歳から、2年毎、10年間以上に亘って経年的に連続して蒐集した日本人男女各59名（10年間：14名、12年間：45名）の手部X線写真、側方頭部X線規格写真（最大開口位）の測定記録である。骨成熟度は手部すべての骨核の化骨過程を点数化し、その総和をパーセントで表示したB.M.I. (Bone Maturity Index) を用いた。

下顎骨の成長は男女共B.M.I. 31~60%の時期においては、下顎枝に比べ下顎骨体部の成長量の比率が大きい、B.M.I. 61~100%の時期には下顎骨体部に比べ下顎枝の成長量の比率が大きかった。

A longitudinal study of general body growth and facial growth. Part 2. The relationship between the growth of mandible and the bone maturation

Kunihiko Fujita, Osami Kusumoto, Emi Nakamura, Etsuo Nodai, Toshimichi Ichida, Sunao Ohki, Reiko Takiguchi and Tetsurou Konoo (Department of Orthodontics, Kyushu Dental College)

The purpose of this study was to understand the direction, the growth spurt period and the size of the mandible and to make an accurate prediction of them. The samples collected from a total of 59 male and 59 female Japanese, comprised of longitudinal data spanning over a 10 year period. Part 2, a phase of the growth in the mandible was investigated by the use of the Bone Maturity Index (B.M.I.) on a hand-wrist X-ray. The relationship between the B.M.I. and a phase of the growth in the mandible was investigated using lateral cephalograms and hand-wrist X-rays taken from 59 Japanese males and 59 females aged from 6 to 18 years. With the B.M.I. at 31-60% for both male and female, the growth rate of the ramus in comparison to the corpus in the mandible was lower. With the B.M.I. at 61-100% in reverse, the ramus was higher than the corpus, and the growth rate for males was higher than for females.

P-9. 中国シボ族の頭顔部および歯列弓の形質人類学的研究

○白谷 元治・渡辺 滋子・金 皓・伊東 励・小林 繁
九歯大・口解1

中華人民共和国の北東部に居住する各民族と頭顔部と歯列弓の形態を明確にするための調査を行っており、今回はシボ族について報告する。

調査対象は遼寧省瀋陽市郊外のシボ族中学校に通学する14~18歳の男108名、女120名である。現地にて行った生体計測と歯列印象模型の計測値について検討した。

頭最大長の平均値は男174.1mm、女169.3mmとともに「短」型に属していた。頭最大幅は男154.2mm、女149.8mmとともに「中」型に属していた。頬骨弓幅は男134.5mmで「狭」型、女131.4mmで「中」型に属していた。形態顔面高は男116.9mmで「低」型、女112.5mmで「中」型に属していた。頭長幅指数は男88.7、女88.5とともに「過短頭」型に属していた。シボ族の頭部は漢族や日本人より短頭であり、満族やモンゴル族とはほぼ同様であった。形態顔面指数は男87.0で「中顔」型、女85.7で「狭顔」型に属していた。シボ族の顔面部はモンゴル族、満族および日本人より広顔であり、漢族とはほぼ同様であった。歯列弓の形状は上顎ではモンゴル族、満族および漢族とはほぼ同じであったが、下顎ではこれらの民族より長径がやや長かった。また日本人の歯列弓より上下顎とも前後的にやや長かった。

Physical anthropological study on the measurement of head and face, and morphology of dental